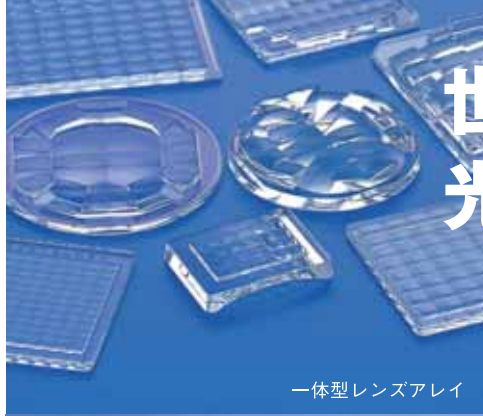


# 世界シェア60%を誇る 光学ガラス部品メーカー



一体型レンズアレイ



複合放物面集光器 (CPC)



ガラスフィルター

## 五鈴精工硝子株式会社

### 身近なガラス製品の製作から 光学ガラス部品の製作へ

五鈴精工硝子が出発したのは明治38年。現在社長である垂水孝至さんの曾祖父が興した垂水硝子製造所が始まりだ。以来100年以上、一貫してガラス製品を作り続けてきた同社。創業当時に手がけていたのは、自転車のリフレクター（反射板）や、ガラス装飾品だった。そこから戦中はガラスボタン、戦後にはガラス製の基石と、時代が要求するガラス製品を作り続けてきた。特筆すべきは、どれもが製造装置から自社で開発・製造してきたという点だ。創業者である曾祖父以来続く、どんなものでも「なければ自分で作る」という姿勢は、今も同社に根づいている。

五鈴精工硝子がガラスレンズの分野に進出したのは昭和26年。真空成形装置でレンズブランクを成形したのが始まり。レンズブランクとは、加工前の磨かれていない状態のガラスの塊。当時からカメラのレンズ用素材とされていた。初めての挑戦だったが、型を作り成型するという過程はこれまで手がけてきた他の製品と同じと考え、「光学もの」だからという



で臆することなく挑戦したという。もちろんこのときも、真空成形装置の開発から着手し、数々のトライ＆エラーを経て見事作り上げた。

その後、昭和29年には「熱線吸収ガラス」の製造を開始。これは、現在、オプトエレクトロニクスをはじめ、OA、写真、照明、医療機器等に使用される各種フィルターの製作につながっている。

### 6割を超えるシェアを持つ 「一体型レンズアレイ」 高品質を支える評価装置も 自社で開発

現在、五鈴精工硝子の主力製品であり、6割を超える世界シェアを持つ「一体型レンズアレイ」。これは、2枚1組で照射面の明るさを均一にすることができ、液晶プロジェクターなどに用いられるものである。製造を開始したのは平成5年。すでに手がけていた非球面レンズの広告を見た大手光学機器メーカーからの依頼がきっかけだった。

垂水社長は当時をこう振り返る。「レンズアレイ自体まだ世になかったので、製作の方法から自分たちで編み出すしかありませんでした。苦労しましたが、全社員が一丸となって取り組みました。思うように製品を作ることができなかったときは、『あと一歩ですね』というお客様の言葉にも助けられました」。

またこのとき、既存の装置を改造し、レンズの形状を測定するレンズアレイ用測定器も開発。「最終的な評価装置まで備えたことは強みとなり

ました。製品の評価を同時にできることが、品質の向上につながりました」と垂水社長は話す。

今後のビジョンについては、「これまで続けてきたレンズアレイの技術をベースとした『太陽光発電用集光レンズ』の開発・製造に力を入れ、光学産業において、規模は小さくても技術を活かして一番になれる分野に進んでいきたい」と語る垂水社長。時代の要求に応えたガラス製品作りは、これからますます多忙を極めそうだ。

#### 五鈴精工硝子株式会社

住所 / 〒557-0063  
大阪府大阪市西成区南津守6-3-6  
創業 / 明治38年  
設立 / 昭和18年1月  
資本金 / 7,650万円  
従業員 / 130名 (平成21年1月現在)  
TEL / 06-6659-1575  
FAX / 06-6651-7966

#### Company Profile



垂水孝至さん  
代表取締役社長

#### 主な事業内容

特殊ガラス、光学レンズ、一体型レンズアレイ、非球面・型押しレンズ、各種フィルターの開発・製造等

ISO 9001  
ISO 14001



<http://www.isuzuglass.co.jp/>